

「東京つくばサイエンスツアー」に期待すること

学校長 駒田 勝

本校の本年度のスローガンは、『知を創造する人づくり』です。本校では、このスローガンを具現化するために、様々な分野において、いわゆる「ホンモノ」に触れる機会を提供できる「生徒研修」の充実に力を入れています。この度の「東京つくばサイエンスツアー」もそのうちの1つです。関東一円の研究施設や企業を訪問し、世界をリードする最先端の知識や技術等々に触れることで、皆さんの若い感性を刺激し、科学分野への興味・関心を一層高め、広く世界に目を向けるきっかけを得ることをねらいとするものです。本年度もこうして関東一円を研修会場として実施できますのも、趣旨をご理解いただいた関係機関の皆さま方のご協力あってのことと、深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、本研修はこれまで2泊3日で実施していた「関東研修」の内容を精査して、昨年度から「東京つくばサイエンスツアー」としてリニューアルし、1泊2日の日程で実施しているものです。従来、本研修に参加する生徒の意識は高く、入学前から参加を楽しみにしていたという生徒も少なくない聞いています。本年度は81回生22名が参加し、日本を代表する最先端の研究施設や企業での学びを得ます。実際、このような学びの機会は日常生活においてそうそう多くないはずです。それぞれの訪問先では、自らが意識して関わりをもち、積極的に質問するなど、主体的な学びの姿勢をもって臨んでいただきたいと思います。

また、東京大学研究室訪問では、松久 直司博士(本校71回生)にお世話になります。松久博士は、有機エレクトロニクスの研究者であり、研究室を見学させていただきます。大いに楽しみにしておいてください。

ところで、数学者の広中平祐は、著書「生きること学ぶこと」の中で「ものを考える態度には、短時間で考える即効型と、長時間思考型がある」と述べ、長考型思考の訓練ができていない人は、ものを深く考えることができないため「知識の深さ」が得られないと述べています。また、ものを考えない人間はいないとしながらも、ここ一番という時に、より深く考える力、素養を身につけておくことは、学生時代に是非やっておくべきことだとも語っています。将来、研究者や技術者、教育者等を目指す皆さんには、是非このことを念頭に置いてこの度の研修に参加していただきたいと思います。

最後になりますが、本研修の計画・実施するにあたりご尽力いただいた関係教職員に感謝申し上げますと共に、生徒の皆さんにとっては、将来につながる新たな知見を得る充実した実り多い研修となりますことを期待しています。